75

誌上発表

朝鮮の外科手術の先駆者である白光炫について

吉村　美香

愛知淑徳大学 交流文化学部

2012 年–2013 年に韓国 MBC 放送で放映され，その後日本でも放映された『馬医』というドラマがある．その主人公は実在した医官，白光炫をモデルとしている．

白光炫（ペク・グァンヒョン，1625–1697，字は淑微（スッキ）．漢字名には白光玹，白光鉉，白光賢，白光顯もある）は，朝鮮王朝時代の馬医，鍼医，医官，県監であった．本籍地は林川．

元々は賤民の身分の馬医（現在の獣医）で，医学書によらず鍼治療を行っていた．鍼（切開に用いる医療器具全般）を煮沸消毒することで馬の治療技術が進歩し，これを人の治療にも応用し施術したところ効果があり，人の病気治療をする医員となり，身分も上がった．以後は煮沸消毒した鍼を用いた外科治療を専門として数多くの臨床経験をし，医術を向上させた．その優れた医術能力が認められて宮中内医院医官となり治腫教授も兼任した．朝鮮王朝 18 代顕宗（1641–1674）の時代に内医院の医官として出仕した．名前の確認できる一番古い記録は『朝鮮王朝実録（顕宗実録）』によるもので，1670 年（顕宗 11 年）8 月 16 日に顕宗の病気が快復したときに治療に携わった人物の一人として記録されている．医官としては最終的に御医（王の主治医）となった．

19 代粛宗（1661–1720）の時代の記録『朝鮮王朝実録（粛宗実録）』によると，1684 年（粛宗 10 年）に康翎県監，その後抱川県監に任じられている．また 1691 年（粛宗 17 年）に知中樞府事（正二品相当）に叙され，翌年に崇禄大夫（正一品相当）に昇叙した．1695 年（粛宗 21 年）12 月 9 日の『朝鮮王朝実録（粛宗実録）』には「脚気を患っていた領敦寧府事の尹趾完（ユン・ジワン）の治療を行った」とあり「白光炫は煮沸消毒による治療をよく行い，多くの結果を残しているから，この世の神医である」と記されている．1696 年（粛宗 22 年）の『朝鮮王朝実録（粛宗実録）』には 70 歳を過ぎた白光炫が「“老医”というニックネームをもらった」という記録が残されている．

一番多くの記録が残されているのは，鄭來僑（1681–1759）の著した浣巖（鄭來僑）集第四巻『白太醫傳』である．そこには「太醫白光炫者．小家子也．生於仁祖世．爲人醇謹．在鄕里恂恂若愚人．身長大好鬚髯．目炯炯有光．家素貧．常衣大布．貼裏戴破笠．施施行市隧閒．從人匄貸．人多厭之．少年或觝踢侮戲．光炫笑而不怒．初善醫馬．專用鍼療之．不本方書．久益手熟．以試人腫瘡．往往有奇效．遂專以治人爲務．以是周行閭閻．得視人腫瘡甚多．其知益精而鍼益善．凡疔疽毒盛有根者．古方無治法．而光炫遇之．必用大鍼决裂．疏毒拔根．能轉死爲生．初則用鍼過猛．或至殺人．然其效而活者且衆．故病者日集其門．而光炫亦自喜其術．爲之益力不懈．用此名聲大振．號曰神醫．肅廟初．選補御醫．有功輒加秩至崇品．而歷職爲縣監．閭里榮之．然其遇病者．無貴賤疏親．有請卽往．往必盡心極能．見其良已然後止．不以老且貴爲解．非惟爲技能所使．盖其天性然也．余年十五時．內舅姜君病唇疔．邀白太醫視之．曰不可爲矣．恨不前二日見之．急治喪具．夜必死．至夜果然．時白太醫已篤老而神識尙全．能知病死生不失毫髮．其在盛時．至某家治某病而得神效起死云者．非妄語也．白太醫卒．其子興齡嗣爲業．粗有能聲．弟子有朴淳者亦以治腫名．今世疔疽决裂之法．自白太醫始．而後學者傳爲經驗之方．然其子孫與他人學者皆莫能及焉．人有病疽毒難治者．必歎曰世無白光炫．噫．死而已矣．」と書かれている．人柄が素朴で，王，王族，両班（貴族）から平民，賤民まで貧富貴賤や身分に関係なく病人ならば誰でも病気を治療したことにより，世間では“神医”と呼ばれていた．彼の死後，息子と弟子が医業を引き継いだが，父や師匠の医業を超えることはなかった，とある．